

【山崎主宰の俳句】

神くらの座

山崎 聰

原郷の濃くなつてゆくとんぼ釣り
誰と誰とうしろすがたの似て満月
つちくれはつちくれとして昼の月
流星の墜ちゆくさまを修羅という
壺阪を下つてゆけば秋の雨
雁のこえ野のこえおのれ叱る声
さびしからんに月山はきようも霧
鎌倉市小町二丁目蟹雑炊
ふくろうの視野に荒ぶる神の座
いつせいにだれにともなく藁ぼっち